

---

## 迷惑伝書鳩の撲滅法(異世界書評)【完結】

ネアンデルタール家元

---

暁～小説投稿サイト～ By 肥前のポチ

<http://www.akatsuki-novels.com/>

## 注意事項

このPDFファイルは「暁く小説投稿サイトく」で掲載中の小説を「暁く小説投稿サイトく」のシステムが自動的にPDF化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「暁く小説投稿サイトく」を運営する肥前のポチに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

迷惑伝書鳩の撲滅法（異世界書評）【完結】

### 【作者名】

ネアンデルタール家元

### 【あらすじ】

パセラ珈琲本舗の再建が頓挫した理由はクラウドファンディングの失敗による。たび重なる台風と大雨の影響でトランジスター川が大噴火し大勢の丙午

が逃げ出した。堤防にテコンドー達人が集結し「ヲハハ歯波」を叫び放ったがまるで歯が立たない。毎時水圧20光年の濁流はトランジスター川の堤防を格闘家ごとお品菓子、押し流されたお品書きは隣の客はよく竜巻扇風機客だ山に柿の山を築いた。パセラ珈琲本舗の常連客たちはこれで干し柿を作って復興資金を得ようとしたが、

そのクラウドファンディングに不正が見つかったのだ。何とテコンドー達人たちが虹の橋を渡る時に大阪南の虹の街で二次元少女と二重あごのブロンソン髭20世が激怒した。そしてクラウドファンディングの運営に監査を申し入れた。だがパセラ珈琲本舗の店主にスキヤングルが発覚した。二次元少女とテコンドー達人を美人局していたこと。両者から多額の上納金を巻き上げていたこと。トランジスター川の治水工事を巡る汚職など次から次へと叩けば叩くほど埃が出てくる。もうもうと立ち込めたる埃は雨雲となってトランジスター川の源流を覆った。そして線状降水帯が大雨を降らせ始めた。ブロンソン髭20世とパセラ珈琲本舗店主は雨の中でテコンドー達人と対決する。そしてトランジスター川に放たれた雷と稲妻の嵐が雨で消えたことで今度は雷雨となって次々に小雨となり、とうとう雨を降らせることになった。トランジスター川の水圧は強まった。「ヨハハ歯波で虹の橋を壊すんだ！　せーのヨハハ歯波」

作者について

アメリカ原住民パヒョ族の伝承

## 異世界書評とは何か。異世界遺構発掘入門

人間とはすなわち丸ごと博物誌である。

誰でも知っている四次元人類文学者パーテス以東の名言である。彼は惑星メルボルンで第八十八文化人の遺跡を発掘中に原因不明の爆死を遂げた。が、世界は偉大な頭脳の犠牲と引き換えに知恵の実を得た。第八十八文化人は優れた科学力を宇宙開発でなくインナースペースの探検に振り向けていた。その成果が遺跡に隠されていたのだ。パーテス以東の死亡事故現場からメルボルンに起こりえない重力異常が検出された。

それはすなわち余剰次元の果てに別世界を垣間見せる。私たちはパーテス以東の遺骨収集に赴いて帰らぬ人となった捜索隊たちのメモや通信記録から余剰次元世界の向こう側を紹介したいと思う。

迷惑伝書鳩の撲滅法は数少ない探検隊遺族の証言や当時の未公開資料を出来る限り駆使して執筆した。

### 『パセラ珈琲本舗の謎』

パセラ珈琲本舗の再建が頓挫した理由はクラウドファンディングの失敗による。たび重なる台風と大雨の影響でトランジスター川が大噴火し大勢の丙午が逃げ出した。堤防にテコンドー達人が集結し「ヲハハ歯波」を叫び放ったがまるで歯が立たない。毎時水圧20光年の濁流はトランジスター川の堤防を格闘家ごとお品菓子、押し流されたお品書きは隣の客はよく竜巻扇風機客だ山に柿の山を築いた。パセラ珈琲本舗の常連客たちはこれで干し柿を作って復興資金を得ようとしたが、そのクラウドファンディングに不正が見つかったの

だ。何とテコンドー達人たちが虹の橋を渡る時に大阪南の虹の街で二次元少女と二時間二重瞼手術をしていたのだ。これは怪しからんと二重あごのブロンソン髭20世が激怒した。そしてクラウドファンディングの運営に監査を申し入れた。だがパセラ珈琲本舗の店主にスキヤンダルが発覚した。二次元少女とテコンドー達人を美人局していたこと。両者から多額の上納金を巻き上げていたこと。トランジスター川の治水工事を巡る汚職など次から次へと叩けば叩くほど埃が出てくる。もうもうと立ち込めたる埃は雨雲となってトランジスター川の源流を覆った。そして線状降水帯が大雨を降らせ始めた。ブロンソン髭20世とパセラ珈琲本舗店主は雨の中でテコンドー達人と対決する。そしてトランジスター川に放たれた雷と稲妻の嵐が雨で消えたことで今度は雷雨となって次々に小雨となり、とうとう雨を降らせることになった。トランジスター川の水圧は強まった。「ヲハハ歯波で虹の橋を壊すんだ！　せーのヲハハ歯波」

と叫んでも雨から逃げないトランジスター川に稲妻が輝き始め、ブロンソン髭20世とテコンドー達人の戦いは始まった。長く続いた激戦はそこで終わった。この話の話の後には「クラウドファンディング」と書かれたポスターが貼りつけられ「〇〇に届け、クラウドファンディング」と書いた紙も貼られた。

この物語の内容は、ブロンソン髭20世がトランジスター川による被害を訴えて、彼が被害を訴えるとトランジスター川はその原因を調べるための水の流れるのを止めて、その理由を書き物すると書かれた、ブロンソン髭20世の本の一冊。彼の本の一ページ目には「トランジスター川上流において、あるいは川の流れの中にある複数  
の人は、この本を読み終えるとこれを見せる。」と書かれている。

これはブロンソン髭20世がトランジスター川に対しての被害とその理由を訴える様子と、そこで書き終わった本がブロンソン髭20世の本として載っている。

作者について

よくわかってない。余剰次元に連なる地球の時間線のうち、とある北米大陸とかかわりがあると思われる。

迷惑伝書鳩の撲滅法にはこの他にも奇妙奇天烈なエピソードが記録されているがその全部を網羅するとカイロ図書館が三軒立つと言われているので興味深い章を抜粋する。

真打！迷惑伝書鳩の撲滅法【本編】

ピロシキ諸島住民の地域の健康と健やかな子供の成長を脅かす迷惑伝書鳩の撲滅法について辛抱強い研究成果が実った。目撃伝書鳩は毎年春と秋。ニューカッスル天然油脂性環境にやさしい菌の繁殖期に餌をもとめて来る。伝書鳩は田畑を喰い荒らし劇場型

クーポン広告の雨を降らせるので青少年育成に甚だ悪い。ピロシキ諸島の男たちは金華山線香を焚いたり丸っと和尚のポーズを構えたが伝書鳩に致命傷を与えられないでいた。そんなおり歌舞伎町のレディー素麺売りがふと閃いた。鳩に効く饅頭コロリを一口うどんに混ぜれば。微塵切りにして真空管テレビに供えてみると伝書鳩が畏にかかっていた。

「饅頭コロリが伝書鳩に効果的よ」  
レディー素麺売りは新宿歌舞伎町のパピロマ医学会に発表した。さらに金華山線香にミトチーズを和えて二分三千年チンすると色艶香良いコロリ饅頭の元が発見された。

「これが伝書鳩に効くとは。しかもコロリ饅頭じゃないじゃない」  
そう言う若い医者の子が伝書鳩に毒ガスを混ぜれば伝書鳩の心は壊れると考え「コロリ饅頭は殺生と言うことわざの中に書いてあります。私は必ずコロリを食し続け薬を貰いなさいと言う意味なのです。それを解らない伝書鳩なんか、何故人を食らい殺しますか」  
「コロリ饅頭は死ぬときは甘くてしょっぱくてしょうがないから食べられない。でもコロリ饅頭は死ぬと本当に甘くてしょっぱくてし

ようがないから食べられる。それでも死ぬときは甘いのを貰う」

「コロリ饅頭のおかげで命が助かったんだからね」

「コロリ饅頭はお前の子飼いの薬師でもないくせに」

「コロリ饅頭は命の助けになったから貰う。私のために食べてくれ」

「コロリ饅頭と伝書鳩、どっちをとったらいいと思う？」

薬学者が医者に訊いた。

「コロリ饅頭のほうがいいと思いますよ」

薬学者が答えた。

「コロリ饅頭なんて、食べれるんですか」

「いやコロリ饅頭を食べるからはコロリ饅頭より良いことが起こる。

コロリ饅頭のほうが美味しいけどもコロリ饅頭より悪いことが起こりやすい。命の助けになることがあってよかったと思いますよ」

「コロリ饅頭が人に死を与えるんだなど、よくわかるよね」

「コロリ饅頭はその名の通り、甘くてしょっぱいコロリ饅頭で生きていくから食べる人に与えたくない。でもコロリ饅頭を食べようと私が言えば食べられる。だから、コロリ饅頭を食べ続けていけば良い」

薬学者は医者に言った。

「コロリ饅頭は食べられない。コロリ饅頭が死んでいるから食べたということはそのコロリ饅頭は死んでいるから食べる人に食べさせようとする。コロリ饅頭はただ食べられる」

薬学者はまた薬を飲んだ。

「コロリ饅頭は生きていて良かったと思う」

「本当はコロリ饅頭は死んだわけではないんですね。でも、死んでいるんじゃない。コロリ饅頭は生きている」

薬学者は薬を飲み干した。

「コロリ饅頭はもう死んでいるんだ。コロリ饅頭はある時突然死ん



だんだ。そう思わないとコロリ饅頭は動かない」

「そうかもしれないと私は思いますよ」

「コロリ饅頭には薬が入っている」

「そのコロリ饅頭はもう死んだ。だからやっていることは一緒に死ぬこと。死とはそういうものだよ」

薬学者は言った。

「そうよね」

母親はちよっとからかうように言った。

「そうよね。人は死んで、コロリ饅頭が持って死んでしまったことに気づいて、コロリ饅頭から作る薬をやって人を助けたいと思うけど、コロリ饅頭を食べても死ぬのが怖い人はどこにいるんだろうね。コロリ饅頭からコロリ饅頭を食べてしまう人はどこにいるんだろうね」

薬学者は自分の父親のことがふとよぎった。

「父さんはどこにいるんだろうね。コロリ饅頭からコロリ饅頭を食べなくなった父さんはどこかにいるんだろうなあ。その病院ではコロリ饅頭だけではなく、薬を受け取る人はコロリ饅頭が死んでい

るから食べられないので私がお世話しますよ」

母親は父親の顔を見た。父親はやはり何も言わなかった。

そして、その父親の顔に気づいた。

「父さん、どうかしたんだ」

父親は薬学者を見上げていた。

「いいや、何も」

父親は言った。そして、父親は母に微笑んだ。

「大丈夫だよ。母さんは気づいている」

薬学者は言った。

「そうだよ。だってコロリ饅頭には薬も入っているし、コロリ饅

頭がないと死んじゃうからね。だから、母さんが気づいたままであれば良いんだよ。ほら」

母には薬が入っている कोरोリ饅頭を見せても死ぬことはないと言った。

「何かあるんだけどな」

そう父親は言った。

「 कोरोリ饅頭が死んだ？ 」

「それは本当ですか？ 」

父親は薬学者と一緒にピロシキ諸島の土を踏んだ。

「しかし俄かに信じられない」

ピロシキ諸島酋長 エピソード座衛門 8世が青息吐息で唸った。もう余命いくばくもないという。

「父を…父を助けて下さい」

エピソード座衛門令嬢 ヲハハが涙ぐむ。

「迷惑伝書鳩の撲滅法を持ってきました！お父さんはきっと治りますよ」

薬学者が励ます。しかし ヲハハは信じない。「母は伝書鳩に殺されました。父も…」

村娘でピロシキ諸島一の美女 アッパーを庇って胸を貫かれたのだ。必死のパッチで看病も空しく伝書鳩の毒が エピソード座衛門をむしばんでいく。

「 कोरोリ饅頭を持ってきたんだ！ 」

父親はそう断言した。

「同じことを都会から来た医者がありました」

アッパーは猜疑心を剥きだした。

「都会から来た医者？　もしかしてこんなマークのラップを持っていましたか」

薬学者が頓服薬の袋を見せた。「これです！」

「劇場型クーポン？！　そうか、真犯人がわかったぞ！」

父親はエピソード座衛門に事情を説明した。迷惑伝書鳩は天然に存在しない生き物だ。

虹の橋のふもとに不屈の精神論研究所がある。劇場型クーポンはこの割引利用をやたら押していた。

リクライニングシートつきで岩盤浴も楽しめ口ウリュ体験もすき焼き鍋も食べ放題で各種ストーリーミング配信も完備。送迎バスでピロシキ諸島から日帰りできる。

「ニューカッスル天然油脂性環境にやさしい菌でやっつけよう」

薬学者は島中の法螺吹きを総動員して嘘八百を突きまくった。開口部からニューカッスル天然油脂性環境にやさしい菌まみれのコロリ饅頭が打ち出された。

それは偏西風に乗って虹の橋を渡った。

ピカレスク！ピロシキ！！

迷惑伝書鳩がニューカッスル天然油脂性環境にやさしい菌に釣られて島を離れた。

そして24日後、精神論が重い病気に負けた。不屈の精神論研究所は株価が暴落し格付けも最低限に落ちた。

不屈の精神論研究所は死んだ。

そしてエピソード座衛門父娘も元気になった。

めでたしめでたし。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
[http://www.akatsuki-novels.com/stories/index/novel\\_id~26091](http://www.akatsuki-novels.com/stories/index/novel_id~26091)

---

迷惑伝書鳩の撲滅法(異世界書評)【完結】  
2021年08月14日 16時10分発行